

平成 30 年 4 月 11 日

第 18 回海上技術安全研究所 研究発表会 7 月 18 日開催

－講演、ポスターセッションの内容決定－

国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 海上技術安全研究所（所長 宇都 正太郎）は 7 月 18 日（水）、「第 18 回海上技術安全研究所 研究発表会」を千代田区平河町の JA 共済ビルで開催します。

今回は研究所で重点を置いている海洋開発、安全確保、基盤技術開発及び環境保全の 4 分野に分けて、20 の重点研究講演を行います。

また、基盤的な研究を紹介するポスター（25 本）も会場内で展示します。

- ・日時 平成 30 年 7 月 18 日（水） 10:00～16:45 （受付は 9:30 から）
- ・場所 JA 共済ビル カンファレンスホール 1 階 電話：03-3265-8716
東京都千代田区平河町 2-7-9 （砂防会館の隣、海運ビルの斜め向かい）
- ・講演プログラムおよびポスターセッション 別紙を参照
- ・入場無料、事前登録制

問い合わせ先

国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所
海上技術安全研究所 企画部広報係

Tel：0422-41-3005 Fax：0422-41-3258

E-mail：info2@nmri.go.jp

URL：http://www.nmri.go.jp/

平成30年度 第18回 海上技術安全研究所研究発表会
タイムスケジュール

日付:平成30年7月18日(水)

会場 A

会場 B

10:00 ~ 10:15 (15 分)	開会挨拶・来賓挨拶			
セッションA1(海洋開発) (座長:正信系長)		セッションB1(基盤技術開発) (座長:丹羽特別研究主幹)		
10:15 ~ 10:45 (30 分)	【1】 並進動揺型波力発電に関する研究 (藤原系長)	10:15 ~ 10:45 (30 分)	【11】 生産シミュレータによる造船作業のモデル化に関する研究 ~海技研のデジタルシップヤード構築に向けた方針とその取り組み~ (松尾主任研)	
10:45 ~ 11:15 (30 分)	【2】 海底熱水鉱床開発に係る技術開発 (山本G長)	10:45 ~ 11:15 (30 分)	【12】 ニューラルネットワークによる騒音予測Webアプリシステムの構築 (平方上席研)	
11:15 ~ 11:45 (30 分)	【3】 異常波の発生確率と浮体構造物の終局限界挙動 (齋藤上席研)	11:15 ~ 11:45 (30 分)	【13】 自律避航実現のための取り組み (丹羽上席研)	
11:45 ~ 12:15 (30 分)	【4】 ホバリング型AUV「ほぼりん」の開発状況 (篠野G長)	11:45 ~ 12:15 (30 分)	【14】 内航貨物経路推定と海運市況予測ー物流分野におけるAI・ビッグデータへの取組みからー (松倉G長)	
12:15 ~ 13:15 (60 分)	休憩・昼食 <ポスターセッション>			
セッションA2(安全確保) (座長:福戸系長)		セッションB2(環境保全) (座長:谷澤研究統括監)		
13:15 ~ 13:45 (30 分)	【5】 全船モデルとホールドモデルによる構造応答比較 -DLSAシステムのバルクキャリアへの適用例- (白石哲平氏 及び 村上G長)	13:15 ~ 13:45 (30 分)	【15】 次世代CFDの研究開発状況 (平田系長)	
13:45 ~ 14:15 (30 分)	【6】 船体構造モニタリングシステムの開発に関する研究 (岡G長)	13:45 ~ 14:15 (30 分)	【16】 ビッグデータの活用による実海域性能評価 (辻本系長)	
14:15 ~ 14:45 (30 分)	【7】 代替燃料使用に伴う漏えいガスの換気解析評価 (木村主任研)	14:15 ~ 14:45 (30 分)	【17】 水槽試験の活用による主機特性及び設計が波浪中推進性能へ与える影響の検証 (北川研究員)	
14:45 ~ 15:15 (30 分)	休憩 <ポスターセッション>			
15:15 ~ 15:45 (30 分)	【8】 推薦航路による安全性評価のための要素技術の開発 (三宅主任研)	15:15 ~ 15:45 (30 分)	【18】 ブラックカーボン削減技術に関するレビュー (高橋G長)	
15:45 ~ 16:15 (30 分)	【9】 衝突事故を減らすための停止性能基準 (上野G長)	15:45 ~ 16:15 (30 分)	【19】 多様なエネルギー源等を用いた新たな動力システムの開発に関する研究 (平田系長)	
16:15 ~ 16:45 (30 分)	【10】 被曳航中の漁船の転覆事故解析 (田口G長)	16:15 ~ 16:45 (30 分)	【20】 船舶からの油・有害物質の流出等の対策に関する研究 (城田G長)	
会場 C (ロビー) 10:00~16:00 ポスター展示				

第18回 研究発表会

ポスターセッション(12:15～13:15、14:45～15:15)

NO.	課 題 名	説 明 者
1	屈折率整合技術の水槽試験への応用ー省エネダクト内部の詳細流場計測法の開発ー	濱田 達也
2	PIV/SITを用いた気液二相流計測技術	拾井 隆道
3	自動追尾型測距儀を用いた船体運動の計測	宮崎 英樹
4	第二世代非損傷時復原性基準過大加速度モードの直接復原性評価	黒田 貴子
5	実海域再現水槽で生成した波浪場の長時間造波による特性変化の検証	大田 大地
6	境界条件を改良した粒子法による球形LNGタンクのスロッシング計算	馬 沖
7	繰返し圧縮荷重を受ける防撓パネルの累積座屈変形と最終強度に関する研究	小森山 祐輔
8	極限海象中の船体の流体構造連成応答評価について	高見 朋希
9	船舶への複合材利用に向けた炭素繊維の曲率線配置に関する研究	竹澤 正仁
10	ゴム粒子で分散強化された構造用接着剤の超音波計測	菅澤 忍
11	船舶データベース“World Fleet Register”を使った排ガス対策技術の普及調査	安達 雅樹
12	船用ガス機関および船用ディーゼル機関から排出される粒子状物質の比較	中村 真由子
13	希薄予混合ガスにおける着火・燃焼支援技術に関する研究	市川 泰久
14	バイオ燃料とバイオガスの混焼が船用ディーゼル機関の燃焼および排気特性に与える影響	西尾 澄人
15	アンモニア混焼エンジン	仁木 洋一
16	時空間分布を利用した衝突危険性の評価について	南 真紀子
17	スマートフォンによる小型船舶の衝突防止に必要な情報の精度評価	齊藤 詠子
18	機関点検支援システムの他分野への適用	石村 恵以子
19	事故発生海域の観点からの海難データの分析	柚井智洋
20	東京湾口における船舶遭遇に関する解析	河島園子
21	係留ラインに作用する流体力の推定法に関する研究	石田 圭
22	インストレーション時のサブシー機器に作用する流体力解析に向けたプログラム開発	長谷川 賢太
23	エアリフト方式での揚艀に関する研究	高野 慧
24	深層強化学習によるリニア式波力発電装置の最適制御波力(基盤研究)	梅田 隼
25	次世代海洋調査の新戦略: 複数AUV同時展開による高効率・高精度な海洋調査の実現に向けて	金 岡秀

ACCESS



- 会 場 JA 共済ビル カンファレンスホール
TEL.03-3265-8716
- 所 在 地 東京都千代田区平河町 2-7-9 JA 共済ビル1F
- 最寄り駅 東京メトロ有楽町線、半蔵門線、南北線
「永田町駅」4番出口 徒歩2分
- 駐 車 場 施設内に有料駐車場(地下1階)はありますが
台数・営業時間等に制限がございます。
できるだけ公共交通機関をご利用下さい。

お問い合わせ



国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所
海上技術安全研究所



〒181-0004 東京都三鷹市新川 6-38-1

TEL.0422-41-3005《企画部 広報係》

E-mail: info2@nmri.go.jp <http://www.nmri.go.jp/>